

2022 Autumn

HIMAWARI MAGAZINE

Business Administration

上村岩男の"歴史が刻む"実践経営学

Saneido Corporation KAMIMURA IWAO



有料老人ホーム・寮・社宅
のリリーフシステム
株式会社 三英堂商事

目次

Table of Contents



2022 Autumn

Table of Contents

目次

はじめに -Introduction	Page 04
失敗と未熟 -Failure and Immaturity 2022.8.10放送	Page 06
サイバネティクス理論 -Cybernetics Theory 2022.8.24放送	Page 16
サイコ・サイバネティクス理論 -Psycho-Cybernetics Theory 2022.9.14放送	Page 26
活動弁士の役割 -Role of Activity Speaker 2022.9.28放送	Page 36
日本の人口減少と移民政策 -Population Decline and Immigration Policy in Japan 2022.10.12放送	Page 46
地球環境問題 -Global Environmental Issues 2022.10.26放送	Page 60
施設一覧 List of Facilities	Page 68

はじめに

Introduction

おかげさまでもちまして、私が経営に携わる株式会社三英堂商事は、創業から今年2022年10月に46周年を迎えました。現在は、首都圏を中心に介護付有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅、地域密着型のグループホームを運営しております。ここに至るまでは紆余曲折がございましたが、振り返ると「思えば遠くへ来たもんだ この先どこまでゆくのやら」という歌詞がございますが、あっという間の出来事だったようにも思います。

そんな折、2021年7月、書籍「人生の最後を「感動」で締めくくる! 介護施設選び5つのポイント」(幻冬舎)を発売しました所お話を伺いたいという依頼を軽井沢エフエム放送より受けまして、軽井沢にお邪魔したところ、本書のみならず、私の経営者としての知見をラジオ番組で紹介していきたいというお話をいただきました。

その後同年11月より、軽井沢ラジオ大学講座として「上村岩男の"歴史が刻む"実践経営学」を、毎月第二・第四水曜日に放送を開始しましたところ、思わぬ反響を多くいただくことになりました。この場を借りてリスナーのみなさまに心より感謝を申し上げたいと思います。と同時に、話の内容をテキストで読みたいというご要望もいただくようになりました。

そこで私たちが展開する介護付有料老人ホーム「家族の家ひまわり」に由来する「HIMAWARI MAGAZINE (ひまわりマガジン)」を刊行し、季節ごとに発行していくことといたしました。

今回お届けする2022年秋号では、私が経営するにあたり大切にしてきた経営理念や理論に加え、大きな社会課題についても言及してみました。何か一つでもご参考になれば筆者として望外の喜びであります。

株式会社三英堂商事
代表取締役社長
上村 岩男



失敗と未熟

Failure and Immaturity

「熟するまで頑張れば良い」

2022.8.10 放送

今回の"俺流"行動規範は「失敗を恐れる事はない。なぜなら、結果が上手くいかなかったのは、自分が未熟なのだ。熟するまで頑張れば良い」です。失敗からは数えきれないほどの多くの学びがある、ことは多くの人が気づいていると思います。ただ「上手く行かなかった事をまず深く掘り下げて徹底的に原因を追及することを怠っている」と上村社長は話します。

「財を失えば小さく失い、信用を失えば大きく失い、勇気(希望)を失えば全て失う」

この言葉を実践するために「挑戦するリスクよりも、挑戦しない方がリスクは大きい」と知り、経営することを通じ「トレーニング(努力)を継続すること」、そうすることで巨像をも倒せる日が来るかもしれないと勇気(希望)を与えてくれます。

具体的なトレーニングを継続する発想として、建築家である安藤忠雄さんの事例を紹介、「異文化に触れる旅に出る」ことが重要と続けます。上村社長自身、まだ海外旅行が一般的ではなかった時分に、ヨーロッパを旅したことで、その後の人生に大きな影響があったエピソードを語ってくださったことを思い出します。

全く違う世界を体験してみるのには、失敗という壁に突き当たっても、それを乗り越えるヒントを得られる経験につながる、ということなのだと感じます。

失敗と未熟

失敗を深く掘り下げ、徹底的に原因を追及する

話す以上に人の話を倍聞く

万物の事象について、成功体験から学ぶものはほとんど無いと思うんです。一方で、失敗からは、数えきれない程の多くの学びがあります。ですから、上手く行かなかった時、まず深く掘り下げて徹底的に原因を追及する事が、とても大切なんですね。多くは、意外とこの作業を怠っています。そして、再び同様の失敗を重ねる。歴史は繰り返すと言いますが、仕事の同じ失敗の繰り返しはご免ですよ。

失敗を細かく分析すると、必ず上手く行かなかった事の原因はどこにあったのかが判ります。この失敗の原因を究明する能力を持たないと、「経営する」は出来ないんですね。併せて、自分の未熟さにも充分気付き、自分に対する未来への投資や努力を怠らない事が最も大切という事に気付くと思います。ですから、失敗して、挑戦する気持ちや行動を失うと成長も進化も止まってしまうという事です。実は、こんな言葉があるんですね。「財を失えば小さく失い、信用を失えば大きく失い、勇気(希望)を失えば全て失う」と。

人間には、口は一つ、耳は二つありますね。この意味する所は、何かというと、話す以上に人の話を倍聞きなさいという事なんですね。話し上手は聞き上手と言われますが、自分は話し下手だと言って悩む人は多いと思いますが、しかしですね、日常会話の中で「立て板に水のように」よどみなく話せることが決して良い訳ではないんですね。むしろ相手の話に耳を傾けて、一緒に考えるスタイルの方が、相手は「この人に話して良かった」と安心感を覚えると思うんですよ。

相手の領域に無断で踏み込まない

例えば、ある商品を買いたいと思って、ショッピングセンターとか、自宅等で、売り子さんとかセールスマンから、ある商品の説明を受けながら、売り込みを受けた経験は、一度や二度はお持ちだと思うんですが、売手側の売り子さんや、セールスマンは、商品について十分な知識と自信を持って、説明すると思うんですが。しかし、あまりにも上手くクロージングの方へ誘導させて不安な気持ちになったケースは少なくないと思うんですね。

買い手は結局最終的にその商品を購入しなかった。買い手側は考えますよね。断った後に、売手側は少し押す様な話し方を意識的にしたと、売手側は少し押す(push)事で買い手をクロージングに持ち込む事を意図していたと思うんですよ。実は、買い手側は、売手側の少し強引な押しに対して、反発を覚えるんですね。

人間というのは、相手方から考え方や、行動を押し付けられると、反発するか、その場から逃避するかのどちらかの反応を起こしますよね。これは、無意識に相手方と距離を取って、自分を守ろうとする行動パターンなんですね。押し付けられるというのは、自分の領域に相手が無断で踏み込まれたことと同義なんですね。併せて、相手に支配されて、自分の自由が奪われるのではと考えて、不安な気持ちになる。すると人間は危険地帯から早く逃避したいという気持ちが生まれます。

ですから、売手側といえども聞き上手は最大のトーク術なんですね。相手方の安心感を獲得する事がまずは最も大切な行動なんですね。

我々は人をつくっている

アメリカのロッキード社のロバート・グロス社長が「我々が造っているのは、自動車でも航空機でも、冷蔵庫、ラジオでもない。我々は人をつくっている。その人が製品を作るのだ」と。この言葉と類似の事をかつての松下幸之助さんが『お客様から松下電器は何を作っているのか?と聞かれたら、「人を作っている会社です。そして電気製品を作っています」と答えなさい』と社員に示しているんですね。

コロナの流行が世界的に始まった後の、2021年の1月のある日、私は、タクシーに乗ったんですよ。タクシーが目的に向かって走行中に交差点で信号が赤になったんですね。当然タクシーは、一時停止しますよね。この時、タクシーの車内の電灯が一斉に点灯しましてね。料金を精算する時、車内が明るい状態になりますね。あの状況になったんですね。

私が、後部座席から右手前に居るタクシーの運転手さんに声を掛けたんですよ。「どうしたんですか」と。まさかここで降りてくださいと言われるかと。乗客として当然の質問ですよ。私は、ここで精算を申し出た訳でもないのに。すると前の席でハンドルを握り締めて、青信号になるのを待っている運転手曰くですね、「加金メーターを止めたから」と即答されましてね。私は、一瞬自分の耳を疑いましたね。これまで人生街道の中で、数えきれない程、タクシーを利用して来た訳なんですけど、タクシーの運転手が加金メーターを一時的であるにせよ、走行中に信号待ちの中で、止めてくれた経験は、後にも先にもこの時が初めての経験でした。皆さん、こんな経験ありますか。

この時はとても大きな衝撃と驚きでした。そこで、運転手さん曰くですね、「サービスの一環です」と、事もなげに私の居る後ろの席に返事が返ってきました。本来、タクシーに客が乗っている走行中というのは、一円でも多く稼ぐ事に集中するのが、極普通の行為ですよ。どう考えても、こんな凄い仕事をするタクシーの運転手さんに、この時、私はもう言葉が無かったです。仕事の流儀に圧倒されました。お客様にこんな凄いサービスを提供出来る社員の居る会社の社長は、「幸せだなー」、と思いました。

Failure and Immaturity

トレーニング(努力)の継続は不可能を可能にする

この様な行為というのは、私がこの番組でお話しました、「肥やしは自分に、果実は相手に与えよ」の実践例ですよ。これは、コロナの影響が2020年の年初めから出始めて丁度1年が経った、全くコロナの問題が世界的に解決していない2021年の1月の体験なんですけど、この時、タクシーの運転手さんが更に続けて、「コロナが発生する以前の売上はとても好調だったんですが、去年(2020年1月-)から売り上げは半分になってしましましてね、第2回目の非常事態宣言で更に売上は半分になって、生活できないんですよ」と。「コロナ以前は不景気になる、タクシー業界に職を求めて、沢山の応募者が来たんですが、コロナになった今は、人(運転手)を募集しても全く反応が無いんですよ」と。

時を同じくして、ある別のタクシーを利用した時に、若い女性のドライバーの方だったんですが、この会社は新卒を3年前に男女併せて100人を採用したらいいんですね。「3年を過ぎて、今残っているのは、女性の私1人なんです」と。「取り敢えず、現状で頑張ります」とコメント有りましてね。

ですから、この2020年の年初めに始まった我々が経験した事のない、新型コロナウイルスの世界的流行というのは、世の中の景気や働き方に、大きな影響を与えているんですよ。



実は、今紹介しました、タクシー業界のサービス精神や状況というのは、タクシーの車内で情報を得た内容を自宅に帰ったその日の内に、私のスマホである手帳に記録を残すんですね。「この感動の一コマは、いつの日かきっと何かの機会にお話する事が出来るのでは」と思って。外に出て働く営業マン、この場合、タクシーを運転している人ですね。これは、野球で言うならば、4番バッターなんですよ。4番バッターがホームランを打つとチームの意気が上がりますよね。

ここなんです、「経営する」とは。今ご案内した様な、お客様に感動を与える様な凄いサービスを提供出来るのか、出来ないか。管理職や上司などが、誰も見ていない所で、このタクシー運転手の例の様なサービスを出来るスタッフが何人居るかで、その会社の業績は大きな影響を受けると思うんですね。

ですから、人の見ていない水面下で、こんな凄いサービスの出来る社員を1人でも多く育てる事が出来たら、経営者として幸せですね。「経営する」とは、ある面トレーニング(努力)の継続とも言えますね。不可能を可能にする、言い換えれば「トレーニング(努力)の継続は不可能を可能にする」と言えます。ですから「挑戦するリスクよりも、挑戦しない方がリスクは大きい」という事です。

この様な事から、「トレーニング(努力)は継続すれば巨象をも倒せる」という事だと思えます。



Failure and Immaturity

無いなら無いように

ところで、皆さん建築家の安藤忠雄さんをご存知かと思うんですが、安藤さんは、病気で5臓を全部摘出されていてね。「5臓なしの体」になって今年で8年と自身のプライバシーを公開されているんですよ。しかし、もともと健康には若い時から相当自信があったという事にして、68歳で胆のうと胆管を全部摘出して、更には73歳の時になると、病院から呼び出されて、膵臓と脾臓を全摘出するという、凄い世界を経験されていてね。

安藤さんが医師に向かって「膵臓を全部摘出して、元気な人はいるか?」と尋ねると、ドクター曰く「生きてはいるけど、元気な人はいない」と返って来たんですね。さすがの安藤さんも、「これはまずいな」と思ったと言うんですね。

でも、自分でどうにも出来ない。ここは「悩んでも、しゃあない」と思い、覚悟して、次は生き延びるために出来る事を考えた。若い時分に吉川英治の「宮本武蔵」を読んで、武蔵は、ものすごい数の真剣勝負を重ねながら、1回1回の生か死の勝負に命をかけていたと。武蔵のこの生き様に感銘を受けて以来、自分は覚悟を持って、日々生きることを人生の旨として来た。

無いなら無いように。そんな考え方は、子供の頃から体に染みついていると。中学2年生の時に祖母と一緒に暮らしていた大阪の長屋を2階建てに改造することになって、安藤さんはこの時大工の仕事を手伝ったんですよ。この時の若い大工は昼飯を忘れて黙々と仕事をしていて、1人でやっているから、忍耐も必要。でも、実に工夫しながら楽しそうにやっていた。安藤さんはそれを見て、「この生き方はよいなあ」と。修行すればきっと自分も出来ると思ったんですね。

大学や専門学校で建築を学びたかったが、お金も学力も足りなかったので諦めた。でも、絶望はしなかった。無いなら無い様に。ここで宮本武蔵の覚悟ですよ。「負ければ全て終わる」人生はいつも一発勝負。安藤さんは、法隆寺や東大寺など、身近な名建築物に習うなどしながら、独学で必死に建築を学んだんですね。

私がこのラジオ番組で以前、パラリンピックの精神について、賢者は、「今ここに有る物を最大限に活かす」こととお話したと思うんですが、安藤さんのこの生き方は正にこのパラリンピックの精神と同義だと思うんですよ。

希望は自分で作り出す

安藤さん曰く、今自分が一番心配している事は、下降線をたどっている日本社会の事なんですと。政治や経済の事も有りますが、一番の問題は、希望や夢を感じている人が少ないこと。でも、何でも他人のせいにしてしまわないと。希望は自分で作り出さないとねと。

安藤さんの建築の原点になった「住吉の長屋」は、大阪の三軒長屋の真ん中を切り取って、コンクリートの中庭付きの住宅に建て替えたものなんですね。寒いし、雨の日は、トイレに行くにも傘をさして中庭を通らないといけないと。1970年代(昭和40~50年代ですかね)当時の日本社会は、快適で便利で、経済的合理性が有れば充分という空気の時代だったんですね。

でも、安藤さんは、当時それは違うと思っていたんですね。人間には、不便や困難に対して、知恵を持って挑戦する姿勢が大切なんだと。それで、あえて住手が生きる力を探す家を設計したとおっしゃるんですね。

安藤さんは、20代の若い頃、アルバイトでためたお金で初めてヨーロッパを旅しているんですね。ローマのパテオンで上を見上げたら「光があった」と。ドームの頂上に穿たれた唯一の円形の開口から光が差し込んでいたと。これを見て「ああ、これが希望だと思った」と。

中学2年の時に、あの若い大工が長屋の屋根を取り払って、見せてくれた光と同じだったと。私も、20代の半ばにヨーロッパを旅して、その後の人生に大変大きな影響を受けた事をこのラジオ番組で以前、お話させて頂いたと思うんですが、やはり人間若い時に出来る丈、多くの異文化に触れる旅に出る。

旅で日本文化とは全く違う世界を体験してみるのには、その人の後々の人生に、失敗という壁に突き当たっても、それを乗り越えるヒントを思い出して、解決への出口を見出すと思うんですよ。

思い出を刻みながら峠の茶屋をめざす

ここで、人生の旅に少し触れて見たいと思うんですが、例えば、旅先で困った時、ちょっとした心遣いを受けた経験は、いつまでも記憶に残るものですね。

今から330年程前に、江戸から北へ向かった松尾芭蕉も、旅の思い出を「奥の細道」に残しましてね。今の暦で5月半ばに出発した俳聖らが、現在の栃木県辺りへ辿り着いた時の事。知人を訪ねようと原野を進むが、日が落ちて、農家に泊めてもらうんですね。

夜が明けて、更に行くと、草を刈っている男が「初めて行く人は迷います。この馬を貸しますので、止まった村で戻してください」と、言ってくれたんですね。

やがて、芭蕉たちは無事に人里に辿り着いて、謝礼の金を鞍に結び付けて、馬を返したんです。この人馬の親切が奥の細道の名文に刻まれて、後世へと受け継がれる事となった訳なんですね。

私たちの人生の旅に於いて、こんな思い出を刻みながら峠の茶屋に辿り着いたら最高じゃないかと思うんですが...

サイバネティクス理論

Cybernetics Theory

「人間スマートフォンと哲学が会うとき、
サイバネティクスは融合できるのか」

2022.8.24 放送

今回の"俺流"行動規範は「人間スマートフォンと哲学が会うとき、サイバネティクスは融合できるのか」です。サイバネティクス理論とは、アメリカの数学者ノーバート・ウィナーによって「動物と機械における制御と通信(1948年)」に提唱された、通信工学と制御工学、生理学と機械工学を総合的に組み合わせて扱うことを目的とする学問のことです。

わかりやすく言えば、生命体と機械との同質性を主張していることから、サイバースペース、サイボーグ、サイバーパンクといった言葉が次々と登場するようになった、と上村社長は話します。

さらに、ウィナーは、「機械の人間化」を説き、電子機械をいかに人間の幸福のために利用できるかに腐心したと続けます。

とはいえ、当時のウィナーの著書は、数学の専門知識のない人にとってはとても難解で書いてある内容を読みこなせなかったとか。今回、上村社長からサイバネティクス理論を紐解き、話は紛争、生命科学、そして私たちを取り巻くインターネット環境にまで話は広がりました。

「上村岩男の"歴史が刻む"実践経営学」から、私たちの社会にサイバネティクス理論がどれほど関わっているか、知ることになると思います。

サイバネティクス理論

「動物と機械における制御と通信 (1948年)」を読み解く

20世紀最大の知的成果

「サイバネティクス理論」は、アメリカの数学者ノーバート・ウィナーによって、「動物と機械における制御と通信 (1948年)」において提唱されました。この理論というのは、通信工学と制御工学、生理学と機械工学を総合的に組み合わせることを目的とする学問の事なんです。何やら、ラジオ番組の冒頭からややっこしい感じのする学問なんですけど…。私は、「サイバネティクス」は、20世紀最大の知的成果の一つであると考えています。というのも、情報や、コミュニケーション、メディア、フィードバックといった現代社会の「鍵」となる概念をもたらしているからなんです。

ウィナーはこの書物の序章で、この理論はギリシャ語の「舵手」から着想したと述べていまして、彼によればその理由は、船の操舵室こそがサイバネティクスの目的である「フィードバック機構」の最も古い形式だからとっているんですね。また、ウィナーのサイバネティクス理論は、基本的には数学に基づくものなんですけど、B・ラッセルの元で哲学を学んだウィナーの理論や思想というのは、領域が広く、自然科学の分野に限らず、言語やコミュニケーションを研究対象とする人文科学や、そして社会科学も同じ様に含まれると説いています。

違う側面から例を挙げてみましょう。1980年代のアメリカ合衆国における一冊のSF小説、W・ギブソンの「ニューロマンサー」(1984年)において、ギブソンは、脳と機械が電子的に結合されたネットワークを自身の小説に登場させて、それを「サイバースペース (電腦空間)」と呼んでいるんですね。実は「サイバースペース」という言葉は、「サイバネティクス」と「スペース (電腦空間)」の合成語なんです。

ここからさらに、「サイバーパンク」そして、「サイボーグ」といった言葉が生まれて、これによって「サイバネティクス」の概念も急速に認知、受容され広がりを見せたんですね。

ここで、ウィナーの1948年の著書の中で「サイバネティクス」の副題が実は、「動物と機械の制御と通信」という点にピンとくる方がいらっしゃると思います。生命体と電子機器との境界線が曖昧になる、言い換えると生命体と機械との連続性とか同質性や、人間の脳神経系とコンピューターの通信系が重なり合うということは、現代を生きる私たちにはしっくりとくると思うのです。

難解ゆえに大きな誤解がはびこっている

このように、ウィナーの著書は数多くの数式を含んだとても難解な内容なんです。新しい学問分野の提唱が後世に与えた影響というのは非常に大きかったです。とはいえ、「サイバネティクス」について世間にはびこっている、大きな誤解について、少し触れてみたいと思います。

誤解とは、サイバネティクスの根源の思想は「人間そのものの機械化」と捉えられていること。確かに、サイバースペース、サイボーグ、サイバーパンクといったように、人間の脳神経と交わり、異次元の電脳空間を走り出すSF的未来が描かれる様になりました。

しかし、少なくともウィナー自身が意図していた本当のところは、真逆で「機械の人間化」にあったのではないかという事です。ウィナーは元々、自由博愛主義者で哲学者でもありました。ですから電子機械をいかに人間の幸福のために、利用できるかに腐心して、障害者のための義足の開発などにも没頭しているんですね。

サイバネティクスが誤解とゆがみを与えた原因の一つに、理解するのにとても難解であるという高い壁が存在した事にあると思います。ウィナーの著書はベストセラーになったんですが、実は数学の専門知識のない人にはとても難解で書いてある内容を読みこなせなかったんです。基本的に統計学の確率論とルベーグ積分論に基づく予測と制御の理論だからなんです。

この様な確率論に基づくフィードバック制御系の設計方法がサイバネティクスの内実なんです。ですからあくまでこの理論は、神経経路集合の測度に関する専門的な数学理論なんです。こういった理論的性格に対する考察を経る事なくサイバネティクスは単に、生命体と電子機械との連続性・同質性の一般的な議論として表面的に拡大解釈されてしまった部分も大変大きいと思うんですよ。

渡り鳥からもヒント

ところで、季節毎には渡り鳥がやって来て、春になると北の空へ旅立って行きますよね。冬の田んぼや畑で見られるツグミや家の軒下に巣を作るツバメ等も渡り鳥です。湖や沼地で見れるカモや、ガン等もほとんど渡り鳥です。逆に渡りをしない鳥の事を、「留鳥(リュウチョウ)」と言いますが、スズメ、カラス、キジバト、カワセミ等がいます。

さて、渡り鳥は例えば北の国を目指して、北の国に帰る時には何千キロメートルも長い旅をする訳ですが、今飛び立つ時点とこれから数千キロメートルも離れた北の国を目指す時、少しでも目的地との角度がズレると、全く別の世界への旅となってしまいます。しかも大自然の中を自分の力だけ信じて飛び続ける訳なんです。天気とか、温度そして気圧等全ての条件が刻々と変化する中で、どうして目的地に着けるのでしょうか。

この点について、ウィナーが焦点を当てたことから言及したいと思います。ウィナーは、理工系の学者であるだけでなく、動物学の研究者でもあったんですね。考え方としては、弓矢や弾丸なら最初に目標を定めて、放物線を描きながら直線的に飛行すると思うんですが、「鳥は長い距離を飛ぶ時、飛行の途中で何回も目的地に向かって、軌道修正しながら飛んでいるのでは？」と考えたんですね。そこで新たな疑問が当然に生まれますよね。それは「軌道の修正はどのようにしてどのような情報によって正確に行われるのか？」という事。

例えば、昔の航海技術というのは、星を頼りに広大な大海原を航海した訳なんです。先程の鳥も星を見ているのか？それだと夜しか飛べない…また、曇っている日はどうするのか。そうすると山や川等の地形や景色を見ているのか？果ては体内に磁石が存在するのでは等々数多くの疑問を考えながら考えた訳です。

サイコ・サイバネティクス理論へと発展

こうして体系化された理論が「サイバネティクス理論」なんです。通信（コミュニケーション）しながら、その結果をフィードバックする作業を繰り返し小さな軌道修正（制御）を繰り返すことで、飛行途中の気候や地形の変化に惑わされずに目的地の湖や沼地に辿り着けるという考え方を確立させたんです。この考え方は、「結果をフィードバックする伝達の情報によって制御する」という事でした、この知見はあらゆる分野に応用され、例えば心理学等のそれまで神秘的存在と言われた領域にも科学のメスを入れるキッカケとなったんですね。

ビジネスで言えば、データベース・マーケティングの基礎テクノロジーであるデータベース・テクノロジーも、そしてインターネット・テクノロジーもこの考え方に影響を受けていますし、シンフォニーマーケティングが提唱するリード（見込み客）データとこのコミュニケーションの結果をデータベースにフィードバックして抽出条件を制御する方法などは、まさにウィナーが提唱した理論をマーケティングに応用していることがわかります。

この様にサイバネティクス理論は、その後のコンピューターテクノロジーなどに、大変大きな影響を与えたんですが、マーケティングの面にとらえると、さらにサイコ・サイバネティクスへの発展を促しました。これはウィナーの後の世代であるアメリカの形成外科医で臨床心理学者でもあったマックスウェル・マルツが提唱したものでして、人間の内面にも実は軌道修正しながら、本来の自分（目的地）に近づこうとする、領或を取り戻そうとする機能が備わっているのではないかと考えたんですね。

外科手術によって体の不具合を修正した患者の治療前と治療後の心理的变化を観察しながら発想したというこの理論は、実はベトナム戦争で復員した兵士が、大量に社会復帰できなくなった問題で悩んでいた、当時のアメリカ政府の施策と結合して、大きく発展しました。

このサイコ・サイバネティクス理論とサイコ・セラピーが結合したものが、いわゆる「自己啓発セミナー」なんですね。ですから、企業等が社員を「自己啓発セミナー」に参加させて、参加した社員がしばらくの間はやたらと、元気な形を見る事が出来るのは、「本当の自分」に触れて、（或は錯覚して）自分の無限の可能性を信じられる様になったからなんですね。

ですから、エレクトロニクスやコンピューターの開発に使われている理論が、心理学にまで応用拡大できるなんて不思議な世界ですよ。しかし考えてみると、産業用ロボットもコンピューターも、果てはインターネットさえも元々人間をモデルに開発されていますから、共通点が非常に多いと感じるのは当然の理なのかもしれませんね。

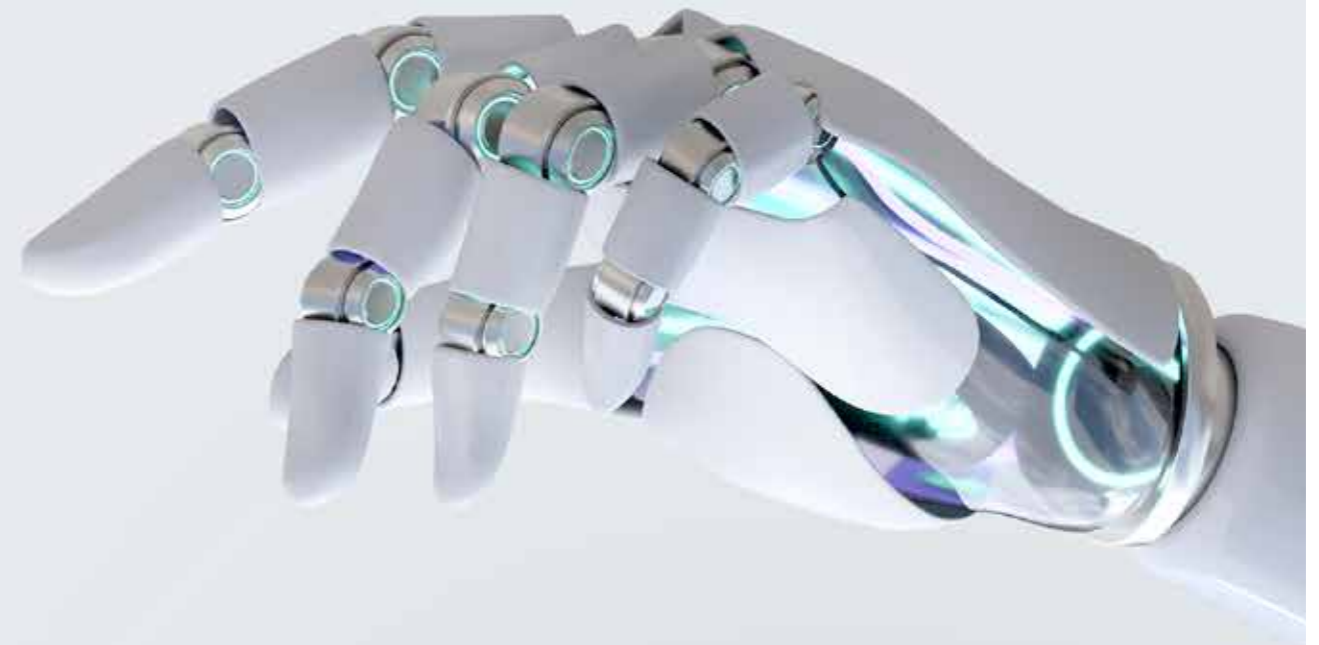


夢物語の実現

人間がコンピューターに取り込まれるのか、又はその逆なのか…行く果ては、人造人間の可能性は非常に高まっていますよね。例えば戦場へ「人造人間」を送り出す等、深海（深い海）や宇宙の探索等ですかね。私はいつも、人類の平和と安全を脅かす戦争を無くす為には、敵地から飛んで来るミサイルや核爆弾、果ては戦闘機等全ての攻撃手段である飛来物の軌道を発射地点や、発信地点へ方向転換させることが出来るシステムさえ完成すれば、相手方はミサイル等の全ての飛行物体を使用出来なくなっているんです。仮に攻撃用の飛行物体を使用すると軌道が変更されて、自分自身が攻撃されてしまいますという矛盾が生じますから。

何を持っていても攻撃用の飛来物は使用できなくなるという抑止力が自ずと働きます。となれば、攻撃用の飛来物の兵器は持っていても意味をなさないという結論に至ります。そうすると平和の維持にかなり貢献出来そうに思うんですが、私のこの様な考え方はあまりに飛躍なのか…この様な研究が世界のどこかでなされていないか、私はとても興味がある所なんですけど…。

1966年にアメリカで、リチャード・フライシャー監督による「ミクロの決死圏」という映画が公開されているんですが、この映画のストーリーは、人間をミクロの世界まで小さくして、脳に疾患のある患者の体内にこのミクロ化した人間を送り込んで、脳に到達して、治療するというストーリーなんですけど、鉄腕アトムの世界が一部現実化している事を考えると、この「ミクロの決死圏」の実現は決して夢物語ではないかも知れませんね。もしかすると未来に生きる人類はこの現実を目にする事が可能かも知れませんね。

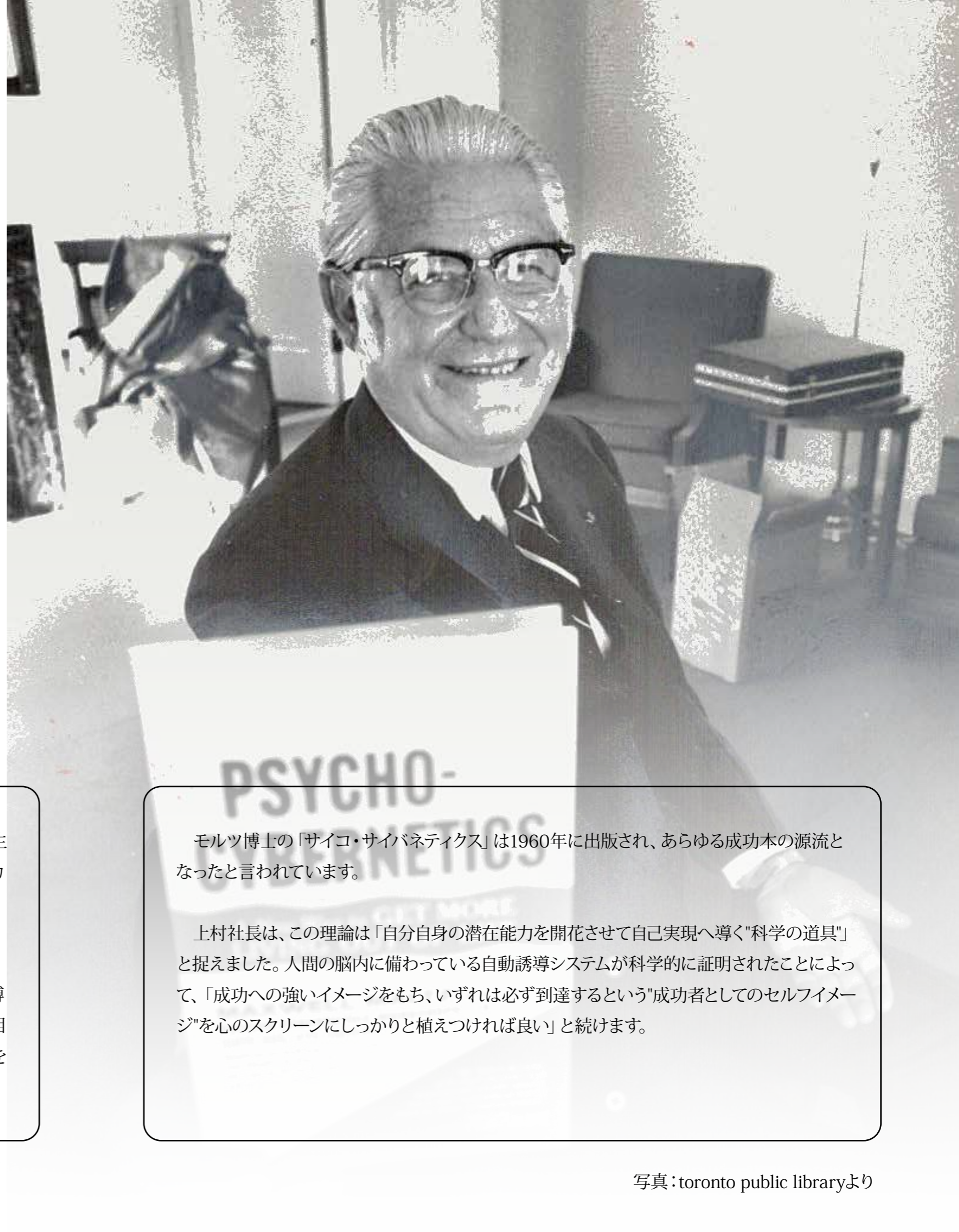


サイコ・サイバネティクス理論

Psycho-Cybernetics Theory

「信念が確信に変わり、新天地に辿り着ける」

2022.9.14 放送



今回の"俺流"行動規範は「「サイコ・サイバネティクス」との出会いは人生の幸運かも、人生の少しの信念が確信に変わり、貴方の未来が新天地に辿り着けるやも」です。前回、アメリカの数学者ノーバート・ウィナーによって提唱された、サイバネティクス理論をご紹介しました。今回はさらに拡張した理論、サイコ・サイバネティクス理論、です。

サイコ・サイバネティクス理論は、アメリカの整形外科医であったマックスウェル・モルツ博士が唱えました。「人間の脳には志向性が有り、明確な目標を設定すると、無意識のうちに目標の達成に向かい出す」と論じています。つまりわかりやすく言えば「思いは実現する」ことを科学的に解明した、と言えると上村社長は話します。

モルツ博士の「サイコ・サイバネティクス」は1960年に出版され、あらゆる成功本の源流となったと言われています。

上村社長は、この理論は「自分自身の潜在能力を開花させて自己実現へ導く"科学の道具"と捉えました。人間の脳内に備わっている自動誘導システムが科学的に証明されたことによって、「成功への強いイメージをもち、いずれは必ず到達するという"成功者としてのセルフイメージ"を心のスクリーンにしっかりと植えつければ良い」と続けます。

サイコ・サイバネティクス理論

「サイコ・サイバネティクス」との出会いは人生の幸運

「サイコ・サイバネティクス理論」とは

前回このラジオ番組放送でマーケティング理論の中の一つとしてサイバネティクス理論をお話しましたが、今日は、この理論を更に拡張した、「サイコ・サイバネティクス理論」を皆さんと共に考えてみたいと思います。「サイコ・サイバネティクス」とは、アメリカの整形外科医だったマックスウェル・モルツ博士が唱えた造語ですね。その意味する所は「あなたの心を生産的で、意味のあるゴールへと誘導すること…偉大な港へと到達出来ること…つまり心の平安です。これを獲得すれば、あなたはひとかどの人間になれるのです。しかしこれが無ければつまらない人生と人間になるのです…」と説いているんですね。

しかし、この内容だと何を伝えようとしているのか、今一つ分かりませんよね。補足の説明では「人間の脳には志向性が有り、明確な目標を設定すると、無意識のうちに目標の達成に向かい出す。」と論説しています。つまり最も分かりやすく表現するとモルツ博士は「思いは実現する」という事を科学的に解明したということになるんです。そして、モルツ博士は、豊富な事例を集め、セミナーやワークショップ等を通じて、サイコ・サイバネティクスをビジネスの成功から、スポーツでの達成感に応用しました。モルツ博士の著書「サイコ・サイバネティクス」は1960年に出版されまして、あらゆる成功体験の源流となったと言われています。

4つのステップ

サイコ・サイバネティクスの思考法は、人間の内面に存在する意識が「自動成功メカニズム」としての役割を果たしていると考えられることと言えます。そこで、サイコ・サイバネティクスを応用して何かを達成したい時、どうステップを踏めば良いのか気になるところです。まず1番目は何と言っても目標（ターゲット）をしっかりと明確に決めるという事です。2番目は、目標を達成するまでの軌道をイメージする事。このイメージというのはとても大切でしてね、自分は必ず出来ると心に強くイメージする事が大事なんですね。そして3番目なんですけど、自分が目標としたターゲットに辿り着くまでの、様々な障害物が必ず存在しますから、これを必ず乗り越えるんだと、強くイメージングする事です。最後の4番目は、自分が数々の困難を乗り越えて成功した（これは完了形ですね）姿をイメージする事です。

私は「人が遊んでいる時は仕事をして、人が寝ている時はペンを持ったからだ」と疑似成功体験の姿を限りなく、脳裏に焼きつける事にはしています。もしかすると、あの人は妄想家だと言われる位かもしれません。それぐらいの強い意思表示の現れが重要です。

ですから、「心の舵取り」を意味するとも言え換えることができるサイコ・サイバネティクス理論からは、人間の「心の仕組み」は、目標を持った時に最も効率よく動く、ゼンマイ式の腕時計の秒針が進む様な精密機械なんだと気づくことができます。ここで注意しなければならないのは、自分が設定した目標次第で、成功するか失敗するのか、幸福か不幸かという結果に行き着くという事です。この事は潜在意識が「自動成功メカニズム」として働くのか、それとも「自動失敗メカニズム」として働いてしまうのか、それは自分自身のインプット（設定）する命令次第であるという事なんですね。

「科学の道具」をどう使う？

サイコ・サイバネティクス理論は、自分自身の潜在能力を開花させて自己実現へ導く「科学の道具」として使えると思います。一度限りの片道切符の人生「充実した幸せな人生」や「健康でいつまでも若さ溢れる生き方」など、科学の目を借りることで実現する新たな発見は、当人の人生を大きく変える可能性を秘めていると思います。

「成功に勝る成功はない」という古い格言がありますが、人間は成功体験を得ることで事を合理的、簡潔に処理することを学んで、更には人間的にも自信を深めて、やがては、更に大きな成功をおさめることに繋がるんです。これとは逆に失敗の連鎖になってしまうと、自信を喪失して「自分は何をやっても努力にしても上手くいかない」と負の連鎖のコンプレックスに束縛されたままで、その後、に於いても成功体験は得られずに終わりそうですよね。

では、この成功体験を最初に得られなかった人は、生涯凡人としてしか生きるすべはないのでしょうか？持論、人生そんな事はないと思います。私たち人間は誰でも実際に成功という体験をする前に「人生成功してこんな人になりたい」という夢や願望というのをいつも持っています。

例えば小学生の女の子に「大きくなったら何になるの？」と聞くと、「お花屋さん」とか「おもちゃ屋さん」になりたいと可愛い夢を語るかもしれませんが、正にそれなんです。実際にお花屋さんやおもちゃ屋さんにならずとも、人生で成功したいという願望への強烈な想像力は、やがて「結果を求めようとするエネルギー」へと自動転換するんですね。

さらに、知っておきたい事に、サイコ・サイバネティクスの理論では、成功をつかむために、私たちに、強靱（キョウジン）な意志とか、トレーニングといったものを一切求めていないという事があります。これは、理論の理解と実践に於いて、特筆すべき事なんですね。成功への強いイメージを持てば、いずれは必ず到達するであろう、成功者としての「セルフイメージ」を心のスクリーンに、しっかりと植え付ければ良いだけなんです。

成功回路「サーヴォ機構」を「ON」にせよ

マルツ博士は、整形外科医として患者の治療や、多くの成功者へのインタビュー、そして脳生理学の研究を通じて、「人はある目標を設定すると、人間の脳内に存在する自動制御機能いわゆる"サーヴォ機構"が働いて、無意識のうちに、最も効率的な進路を判断して、自動的かつ、確実に誘導して目標を実現させる」と言っています。全ての人に備わっている「サーヴォ機構」は、いわばパソコンのハードディスクそのもの。パソコンのハードディスクだとすると、「サーヴォ機構」がないとパソコンは動きませんよね。

さらに、パソコンは特定の働きを指令するソフトウェアをインストールして、初めて、本来の機能を発揮するわけですが、そうするとサーヴォ機構を働かす大切なソフトウェアとは一体何であるかという事が気になりますよね。答えは、「セルフイメージ」と「目標設定」の二つです。セルフイメージを転換して、目標を明確に設定することで、脳内のサーヴォ機構のスイッチは、初めて「ON」の状態になります。そうすると、自身を成功へと歩ませる「サイコ・サイバネティクス」のシステムは自身の思考や行動を自動的にコントロールします。

これまで、成功を勝ち取る為には、サクセス・ストーリーの主人公であるあなたに対して、不断の努力、そして強靱な精神的な試練を与える事が不可欠だと、これまでの成功理論では大前提とされて来たんですね。しかしながら、そうした精神論的な考え方とは別に、人間ならだれでも備わっているサーヴォ機構という成功回路のメカニズムに着目して、論理的科学的な視点から成功実現のメカニズムを解き明かしたのが、このサイコ・サイバネティクス理論なんです。一種の自動誘導システムが人間の脳内には備わっているという事を科学的に解明されているということは驚きですよ。

セルフイメージが人間関係をも決める

ここで、セルフイメージの更なる改善が、あなたの実生活にどのような影響を与えるのか、事例をもとに紹介してみたいと思います。例えば良い友人を得る為に、セルフイメージの果たす役割は特に大きいです。自分自身に係るセルフイメージなのに、それが彼ら彼女らとの人間関係づくりを決定しているという事です。もしも、「自分は価値のない人間だ」と思い込んでいたなら、自分を自分から守るための防御の殻の中に引きこもってしまい、自分が自由であるべき行動を抑制的に制御、弱い自分自身を引き上げる為に、他の人々に対する批判的な思考にふける事で、真の友情を手にする為のせつかくのチャンスを台無しにしてしまうという事にもなりかねません。

もしくは、価値のない人間でない事を必死に否定、証明する場面に遭遇した場合、本来のイメージは「自分は価値のない人間」ですから、がむしゃらに、一方的にしゃべりまくる、他の人をへこます事で、自分の価値を引き上げ認めさせようとして、常に厳しく闘争心をむき出しにする傾向があります。

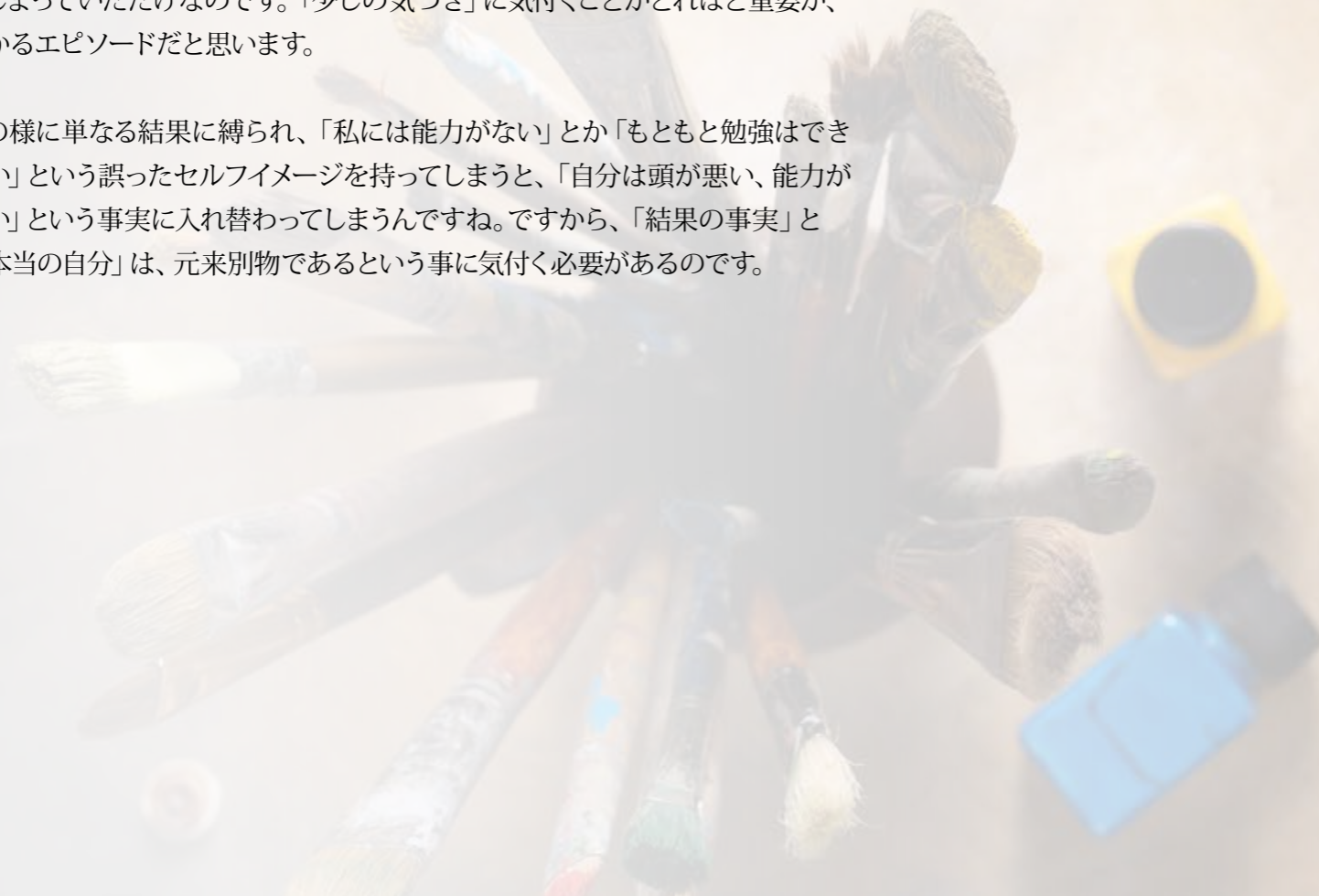
解決策は自分の心の中に有るんですね。自分が本当の自分を受け入れる事が出来るならば、自分の主義主張を取り下げ、まずは自分がほかの人を受け入れることに転じられます。そうすることで、人生で最も素晴らしい体験の一つを手にする可能性が飛躍的に高まると思います。もしかしたら、自分はこれまでの人生でほとんど友人が出来ずに、自分自身を否定して誰からも愛されることのない人間と感じていたかもしれませんね。もしもそうだとしたら、人生の中で、自分が自分に対して、正當に評価してこなかった、ただそれだけの事なんです。ですから少しの勇気と、少しの気づきが有れば、人生は飛躍的に変化する可能性を秘めているという事なんですね。

等身大の自分

人間は、この「少しの気づき」に到達する事がとても大変なんです。例えば、こんなエピソードがあります。ある教科が苦手な生徒がいて、それは生徒から見て「その教科の学習方法が間違っているのではないか、その生徒のセルフイメージを変える事が出来れば、学習効果も変わるはずだ」という仮説を持った教師が、スプリングのひどい間違いの多さで落第した男子生徒と、成績が悪くて退学させられた女子学生のセルフイメージの改善トレーニングをやったんですね。結果はというと、この男子生徒はスプリングで校内トップとなり、又、女子学生はコロンビア大学でオールAを取れたんですね。

この検証からは、彼、彼女は本来、頭が悪かったり適正に欠けていたのではないことがわかります。テストが上手く出来なかったのは、結果としての事実にしかな過ぎなかったのに、「自分は能力がない、出来ない」と当初から結論を先に出してしまっただけなのです。「少しの気づき」に気付くことがどれほど重要か、わかるエピソードだと思います。

この様に単なる結果に縛られ、「私には能力がない」とか「もともと勉強はできない」という誤ったセルフイメージを持ってしまうと、「自分は頭が悪い、能力がない」という事実に入れ替わってしまうんですね。ですから、「結果の事実」と「本当の自分」は、元来別物であるという事に気付く必要があるのです。



「活動弁士」の役割

Role of Activity Speaker

「映画の生い立ち、映画から学び映画作りへの道のり」

2022.9.28 放送

今回は、少し視点を変え、我が国の映画の生い立ちや、映画から学ぶものを上村社長から伺いました。初期の映画はほとんど無声映画（サイレント映画）だったため、スクリーンの中の出演者の声や、音楽が一切流れなかった訳です。そこで、日本では、映画を上映する時には、必ず「活動弁士」が口頭で映画の内容を説明することが求められたんですね。

さて、なぜこうした内容をお聴きしたかという...上村社長率いる、株式会社三英堂商事が、お届けする劇場映画「こわれること いきること」。来年（2023年）春の公開に向けて、いま編集作業がクライマックスを迎えています！

なんと、上村社長、20代前半に「劇団 ひまわり」の養成所に半年間通った事があるのだとか！？もしかすると、売れない役者稼業をやっていた可能性もあるのだとか...

とはいえ、映画製作など、これまで夢にも思った事は無かったのだとか。それがなぜ！？偶然の出会いが、必然となり、コロナ禍を乗り越え、映画制作まで繋がっていった、ご縁がご縁を呼ぶエピソードには、またまた上村社長のお人柄に触れることになりました。

「活動弁士」の役割

偶然と必然が織りなすドラマ

「活動弁士」の活躍

皆さん、映画の嫌いな人というのは、かなりの少数派だと思うんですが、私は、どちらかというと邦画よりも洋画の方を好きなんですが…。今日は少し視点を変えて、我が国の映画の生い立ちや、映画から学ぶもの、そして、我が社が映画制作に取り組んでいる事について、お話してみたいと思います。

日本で映画が初めて公開されたのは、明治29年（1896年）。場所は、神戸の神港倶楽部でした。輸入されたキネストスコープは、日本人にとって全く未知の映写装置でして、又、映画のフィルムの長さも大変短いものでした。ですから、映画を興業として成り立たせるためには、この映写装置の説明からまずお客様に説明をして、映写の臨場感を盛り上げる「説明する人」が必要だった訳でして、映画の初期にこの弁舌を振ったのが、大阪南船場の大商家生まれの上田布袋軒（うへだぼていけん）でした。

当時の映画というと「活動写真」と言われていまして、いわゆる無声映画（いわゆる声の無い）サイレント映画だったんですね。ですから、上映中に映画の内容を語りで表現して、内容を解説する専門の職業弁士が必要でして、この弁士の事を「活動弁士」と言ったんですね。又、単に「活弁」（かつべん）と言ったり、「活弁士」（かつべんし）という呼び方もあります。初期の映画はほとんど無声映画（サイレント映画）でして、スクリーンの中の出演者の声や、音楽が一切流れなかった訳ですね。

例えば、アメリカやヨーロッパでの映画はスクリーンの中に文字を入れたり、生の伴奏音楽を入れて、上映されていたんです。一方で、日本では、言葉とか、文化的背景も影響しまして、映画を上映する時には、必ず「活動弁士」が口頭で映画の内容を説明することが求められたんですね。日本は、昔から話芸の文化が多彩ですから、例えば人形浄瑠璃と三味線、歌舞伎の出語り、写し絵、錦影絵の解説者といったナレーションの文化が定着していたんですね。こんな時代背景を考えると話芸者いわゆる「活動弁士」が舞台に登場するのは、極自然な流れであったんですね。

戦前に於いては、娯楽が非常に少ない中で、映画というのはその中心的存在を占めていまして、ここに職業としての「活動弁士」の仕事（ビジネス）が生まれて来たんですね。ですから例えば、皆さんご存知の徳川夢声、山野一郎、牧野周一、大辻司郎のような人気の「活動弁士」が現れて来たんです。ですから、昔の映画館というのは、必ず舞台装置が有りまして、活動弁士はこの舞台の上で、スクリーンと観客の方に斜めに立って、奥のスクリーンと観客席を交互に見ながら弁舌を振ったんです。ですからどうしても当時の映画の上映には舞台装置というのは必要不可欠の設備だったんですね。

当時の「活動弁士」には、作品に寄り添うというよりも、「主役は自分である」という思いが強かったかと思われますね。現在も持論活躍している「活動弁士」の方は、いるんですが、彼らはそのサイレント映画が持っているテーマなどを損なわないように、ストーリーを語り、その映画の面白さを伝えるにはどうすればいいかと、考えて活弁するんですね。一方、明治、大正、昭和の初期に活躍していた弁士たちは、その映画が「つまらない」と言われることは、活弁がつまらない事とイコールだったんですね。ですから活弁が面白ければ、映画も面白くなる。ですから弁士からすると、映画は本来の目的ではなくて、弁士自身の“語り”の素材に過ぎなかったというのが本音ではないかという事ですね。

映画の100年以上の歴史の中で、「映画とは何か」という価値観を人々がある程度共有できるようになって来ると、作品を尊重して、オリジナルストーリーや、テーマを歪めてはならない事は共通の認識となっています。映画の技術が進歩して、音声が入るトーキー映画が普及して来ると、大半の活動弁士が廃業に追い込まれて、講談師、紙芝居、司会業等に転身する事となりました。

四方山の思い出

私は、16歳から20歳になるまで札幌での苦学生時代を過ごしているのですが、その当時のことを少し思い出してみると、17歳の昭和41年（1966年）なんです。当時はお隣りの中国では文化大革命の時代でした。他には、イギリスからビートルズが来日した年でもあったんですね。歌謡曲では、「星影のワルツ」（千昌夫）、「バラが咲いた」（マイク眞木）、「霧の摩周湖」（布施明）、「悲しい酒」（美空ひばり）等が大ヒットした時代でしたね。

当時、ガソリンが1ℓ当たり51円、コーヒーが一杯76円、葉書が7円、封書が15円の時代でした。因みに先程の映画の料金が全国平均で210円でした。私は、土・日曜日の休みになるとですね、札幌駅の近くに「たぬき小路」という大きなアーケードの商店街がありましてね、この「たぬき小路」の中にあった映画館に毎週のように通ってましてね、今からもう半世紀前の話です。今でも鮮明に覚えているのが当時大ヒットしたジュリー・アンドリウス主演の「サウンド・オブ・ミュージック」という映画ですかね。

最近では、印象に残っているのが「それでも夜は明ける」ですかね。この映画は黒人奴隷を題材にしまして、監督がスティーブ・マックイーン、主演がキウエテル・イジョフォーで、アカデミー賞の作品賞など数々の映画賞を受賞しています。この映画はお勧め、必見です。「コーダあいのうた」もいいです。監督はシアン・ヘダー、主演がエミリア・ジョーンズでして、家族の中でただ1人だけ耳の聴こえる少女の勇気が、家族や様々な問題を力に変えていく姿を描いたヒューマンドラマですね。2014年制作のフランス映画「エール」のリメイク版でして、2022年のアカデミー賞作品賞を含む、主要三部門受賞という栄誉に輝いています。

さて、日本の海洋冒険家の堀江謙一さん（現在83歳）を皆さんご存知だと思いますが、堀江さんは今から60年前の1962年に23歳の時に、マーメイド号で日本からサンフランシスコまで、単独無寄港の太平洋横断に成功していますよね。ひとりぼっちの航海で太平洋横断に成功した時に、堀江さんは、「太平洋ひとりぼっち」という本を出版してまして、実は日活によって、映画化されています。監督は市川崑、主演が石原裕次郎、その妹役が確か浅丘ルリ子さんだったと思うんですが。

1962年5月12日の深夜堀江謙一青年（石原）はマーメイド号で日本を出発して、風頼りのヨットは太平洋という自然の猛威に翻弄されながら、悪天候と体の消耗、そして何よりも孤独との闘いは、人間の限界を超えた物語なんです。実話を基に作られたこの映画は、映画の大半を石原裕次郎が、一人芝居を演じていて、当時の若者の微妙な心理やエネルギーをスクリーンに投影させた、冒険と感動の映画になったんですね。

面白いのが当時アメリカに接岸した時パスポートを持っていなかったんですね。今年の2022年の6月4日に堀江さんは、再び今度は、サンフランシスコから日本までの単独無寄港の横断に成功したんですが、60年前と今回との装備品等を比較してみると大きな変化が読み取れるんですね。

まず、60年前と比べると、船上での調理は飯盒（はんごう）で炊いていたご飯のお米は、レトルト商品のパックをお湯に浸すだけで食べられるようになっています。又、船上の色々な機器類も進化してまして、60年前はヨットの位置を測るのに六分儀や羅針盤を使っていたのが、今はGPSで簡単に自分の位置を正確に知る事が出来る様になっています。ランプはというと灯油のランプだったものが、これが、LED（発光ダイオード）に変わり、Wi-Fi等の通信環境の発達でスマートフォン等でのやり取りが可能になっています。

「太平洋ひとりぼっち」は時間を持て余しますから60年前は約60冊の本を積み込んでいるんですが、なぜか今回の横断では本の数が約10冊と当時の実に6分の1に減っているんです。これは私の推論なんです。スマートフォでのやり取りの時間が極端に増えて、本に目を落とす時間がかかり減った事に原因があると思うのですが、皆さんの見解は如何でしょうか？

こんなことで私は昔から結構映画の世界には興味を持ってましてね。実は20代前半に「劇団ひまわり」の養成所に半年間位通った事がありましてね。今でもそうなんです。鹿児島弁のアクセント指導とトレーニングを受けても直らなかつたんです。挙句の果てには、「上村君は、どっちに転んでも悪役だね」ときたんですよ。さすがにショックでした。当時20歳そこそこですからね。「やっぱりこの顔じゃ駄目なんだ」と完全にこの道は諦めた経験がありましてね、続けていたら今頃売れない役者稼業をやっていた可能性もありますかね。ですから何事も見極めることが必要と、人生の中で大切な事をこの一件から学びましたね。

Role of Activity Speaker

未知なる人々との縁がビジネス拡大の核である

私は起業してから思った事が一つありましてね、やはりビジネスを拡大させるためには、未知なる人々との縁を一人でも多く増やす事がまずは大事ではないかと。ですからこの考え方に基づいて、異業種交流会等への積極的な参加を取り入れたんですね。この交流会と言いますか、イベントの開催は、色々な組織とか団体や、同好会的な集まりを含めて、非常に多いんですね。

只、何でも手当たり次第に参加するというのは、費用とか時間の無駄が発生することは言うまでもありません。自分の立ち位置とか交流会で発信される情報の内容や、イベントの講師の顔ぶれ等、よく吟味して取捨選択する必要があるという事ですね。そして、イベントでは大体講師のセミナーが準備されているケースが多いと思いますので、これは、いつの日にか必ず使える可能性があると思われるセミナーの内容等は、極め細かくメモを取り、そして保存する習慣を身につける事が非常に大切ですね。

以前、このラジオ番組で「文字情報は永遠の記録である…」という「俺流」をお話させていただいたかと思うんですが、この作業を限りなく続けて、ファイルブックを積み上げるんですね。この厚みが厚くなれば成程引き出しの数は増えて、その人の力というのは増々力強くなると思うんですね。「塵(ちり)も積もれば山」でしょうか。ですからこんなたわいもないと思われる作業を何十年も続けると、自分の引き出しの数が、凄い世界を作れると思うんですよ。

この経営者の交流会の中の一つに、「ダイヤモンド経営者倶楽部」という組織がありましてね。この倶楽部で知り合った、会員のご紹介で、渋谷の「かわなか」という居酒屋で小さな集まりがあった時なんですけど、因みにこの居酒屋「かわなか」のお店は、歌手で売れっ子の川中美幸さんのお母様が経営されているという事でひらがなの「かわなか」という店名になったみたいですね。

ビジネスの世界では、知らない人と常にフェイス to フェイスの出会いがありますよね。この時必ず自己紹介として、名刺を相手方に差し出すと思うんですが、私はこの時頂いた名刺に直ぐに日付とか出会いの関係性等をメモするんですね。ここでちょっと、この名刺という道具について一言触れてみたいと思うんですが、名刺の紙質の事なんです。名刺は基本的に素材は紙が多いと思うんですが、頂いた名刺の裏表の両面共に光沢を付けて、ツルツルにコーティングした名刺を頂くことが時々あるんですね。この仕上りの名刺は、先程の俺流のその場でのメモ書きが実は全く出来ないんですね。インクが乗らないんです。この時にはさすがに困るんですね。この事を考えると名刺づくりには注意が必要かもしれません。会合で名刺を頂いた方には私は、基本的にはお礼状に本を同封する作業をズーッと続けていましてね。ですから、先程の居酒屋「かわなか」の会合で名刺を頂いた方に私の著書「おじゃんせ」を後日贈り届けました。実は、後々、このご縁が映画製作につながっていったんです。

「こわれること・いきること」(文化庁推奨作品)

この「おじゃんせ」を読まれた方が、今回私共の映画製作のきっかけとなった映画監督の北沢幸雄さんと知人だったとの事で「介護の事業やってるこんな人(上村)から本を貰ったよ」と、この「おじゃんせ」の本が北沢さんに渡ったんですね。そして、本を読まれた北沢さんが、「この人(上村)に是非会いたい、紹介して欲しい」となり、廻り廻わって偶然にも北沢監督とのご縁に至ったんですね。この出会いが2018年(令和元年)の秋だったんですが、今から丁度、約4年前ですね。

監督とお会いしまして、色々とお聞きしている内に「三英堂さんで介護の映画を製作しませんか」と打診されたんです。これまで私は、映画は沢山見てきたんですが、観る人が今度は、作る側に立ち位置を完全に変わる訳ですよ。映画製作などこれまで夢にも思った事無かったのですが、映画作りのお話を聞く内に少しずつ映画作りに興味を持つ様になったという事ですかね。

企画を色々詰めていく最中、2020年の年初にコロナ禍が始まって、日本を含め世界経済が大変な状況になってしまいました。映画のストーリーの一部に2011年3月11日の東日本大震災のシーンが出てくるんですが、当初の公開予定は、東日本大震災の10年目に当たる2021年2月~3月だったんです。先程のコロナ禍の影響で一度は企画は全て、頓挫した状況になりまして、今年(2022年)の年が明けてもこの企画は完全にお蔵入りと観念していたんです。そうしましたら今年の2月初めに北沢監督から突然連絡が入りまして、企画を再開したいと申出がありましたね。

そこで、急転直下、今年の2月から3月初めにインターネット上でキャストを公募しまして、3月下旬にオーディションの開催とキャストの決定。そして4月にキャストの打ち合わせ、5月に撮影に入るというこれまでの打ち合わせの内容が電光石火の早さで企画が進行しましてね。施設の撮影現場は今年の6月に板橋区に私どもがオープンしました「家族の家ひまわり赤塚」を利用したんですね。

映画には私共の社員スタッフも数名出演しております、企画の段階からこの上村にも是非出演しろと色々な方からプッシュがあったんですが、私は固辞しました。その理由は、先程お話しした「劇団ひまわり」で役者の真似事をやった時のお話をしましたが、悪役が似合うとのトラウマがありまして...この顔では、映画が壊れてしまうという事で私は受け入れなかったんです。持論こんな事、今迄誰にも話してはしませんよ。大正解だったと今でも思っています。

全国公開は来年(2023年)の3月、4月を目標に編集作業が進んでいる状況でして、ぜひ皆さん前売り券の発売も企画が進んでいますので楽しみにお待ち頂けたら嬉しいですね。映画のあらすじは、「東京の介護専門学校に通う遥は、自分勝手な理由で田舎の友人の結婚式に出席しなかった。その日2011年3月11日、東日本大震災が起こり、同じ結婚式に向かう車で被災した遥の家族4人は全員亡くなってしまった。一人だけ生き残った彼女は深い贖罪の意識と喪失感に苛まれながら専門学校卒業後、地元の介護施設で働いていた。わがままな老人たちの世話をしながら遥はどこか空虚な日々を過ごしていたが、そこにかつての恩師が認知症を患い入居してくる。その恩師、入居者と触れ合うことによって徐々に自分を取り戻していく」です。因みに、この映画は文化庁の推奨作品になっています。

タイトルは「こわれること・いきること」です。どうぞよろしくお願いいたします。



日本の人口減少と移民政策

Population Decline and Immigration Policy in Japan

移民国家の実現こそがこの国の生き残りに繋がる…

2022.10.12 放送

今回の"俺流"行動規範は「移民国家の実現こそがこの国の生き残りに繋がる…」です。日本の将来を左右する少子高齢化に伴う人口減少と移民について、上村社長から伺いました。

「外国人の受け入れは、一時的、限定的労働者ではなく、移民族が共存、共栄する多民族国家への移行である」と語り、続けて、国土舘大学の鈴木江理子教授（移民政策）の「日本で長く働いて家族と暮らせる様になれば、海外から見て、今より魅力的な制度になるだろう。外国人の定住化を視野に入れ、子供の教育など、受け入れ体制の整備を急ぐ必要がある」という意見を紹介しています。

世界の先進国の移民の受け入れ状況について、移民大国であるアメリカ、カナダ、オーストラリア、フランス等が挙げられます。特に、オーストラリア、フランスの状況についてお話を伺いました。

「我が国の難局を乗り越えるためには、移民政策からの逃避は出来ない」思われ、むしろ我々はこの移民の問題にもっと積極的に踏み込み、現実に対応すべきだと提言されています。



日本の人口減少と移民政策

現状を座視して果たしてこの国に未来はあるのか

経済協力開発機構（OECD）によると、日本に3ヶ月以上滞在する予定で日本を訪れた外国人は2018年に50万人を超えていまして、国連経済社会局がまとめた2019年の移民人口を見ても約250万人と世界第26位にあるんですね。持論この数字には急増している外国人の技能実習生も含まれています。この増加は過去5年間で70万人も増えています。特にこの中でも大きく伸びているのが、技能実習生でして、2019年末には約41万人となっています。この技能実習制度は、外国人に日本で技能を習得して貰って、この技術を母国に持ち帰るといふ、技能移転を建前としているんですが、現実には日本の現場で労働力不足を充足するために使われており、本来の目的と違う実態があります。ですから本来の目的と現実にはかなりの乖離があるという事です。

しかし2020年初頭に始まった、新型コロナ禍の世界的感染拡大で海外と日本の相互移動がストップしてしまいました。ですから出入国管理庁は、国内で雇止めになった技能実習生に、1年間限定で「特定活動」ビザを付与して、1年後に試験に合格すれば、在留資格5年の特定技能1号ビザを習得できる救済策を打ち出しています。

日本はすでに「移民大国」

日本の将来を左右する少子高齢化に伴う人口減少と移民について、今回は考えてみたいと思います。2020年初頭に始まった新型コロナの世界的感染拡大と、それに伴う経済の疲弊や、国内外の人の移動の抑制や減少は我が国に甚大な影響を与えています。更には婚姻率の低下は出生率の低下に直結しています。併せて、高齢化と多死社会は、人口減少に拍車を掛け、消費の選別と減少、生産性の低下を招いています。

中でも、労働人口の減少を補うために、1990年以降外国人労働者の受け入れが段階的に導入されて来ました。2018年には単純労働分野での外国人の受け入れの法律が制定されています。今や、コンビニや飲食店、工場、介護施設、果ては農村など、我が国の隅々まで外国人が働いている姿を目にしない日はないと思います。ですから海外から見た日本の風景というのは、日本はすでに「移民大国」なんですね。

移民の定義

この実習制度に代表されるように、外国人労働者の受け入れは、どちらかという
と、民間任せの傾向が強かったんですね。とはいえ、我が国の人口減少という時
代の変化はこれを許さなくなってきており、今後の人口減少問題の政策は政府
がより積極的に携わっていく必要があるということです。いくなれば外国人の受
け入れは、一時的、限定的労働者ではなく、移民族がともに共存、共栄する多民
族国家への移行であると言えます。

そこでまず「移民の定義」とは何かという事なんですが、移民という言葉は、使
い次第で多様な形で用いられていると思うんですが、まず広義の移民とは、
「生まれた国以外に住んでいる人」ですね。例えば自国で内戦や迫害を受け
て、他国へ逃避する場合は、「難民」となると思うんですが、しかし、この場合も
広義の上では移民と言えますね。逆に狭義の移民は、自らの意思で新たな国へ
移り住む人を指すんですね。

更には、最狭義（最も厳格な意味）の移民とは、アメリカや、カナダ、オーストラ
リア等の伝統的な移民受け入れの国での法律用語のように、当初から永住を目
的として入国等に永住許可を認められる外国人だけを指すんですね。我が国で
はこの最狭義（最も厳格な意味）でのみ移民という言葉が用いられています。
2005年の国際連合の推計では、世界には約2億人の移民がおりまして、この
数字は、地球上の人口の約3パーセントを占めていると言われています。

又、移民の男女比率はほぼ同じなんですね。この21世紀に入って、移民の増加
傾向は続いていまして、例えば居住地域別に見てみると、ヨーロッパは6,400
万人、私共のアジア圏は5,300万人、北米が4,400万人、アフリカが1,70
0万人、中南米が700万人、オセアニアが500万人という様な分布になってい
ます。

メリットとリスク

そこで「移民の受け入れで期待されるメリットとリスク」なんですが、我が国の場
合、移民の受け入れにはリスクより大変大きなメリットが有ると思うんですよ。そ
れは何かと言いますと、最大のメリットは、労働市場における労働力の確保と補
填ですね。我が国の現状を省みる時、少子高齢化、結婚の減少など様々な理由
から労働力の不足という問題が現実化していきまして、時間の短縮と即効性を考
える時、移民の受け入れは問題解決の最も大きな「鍵」となりますね。

そこで逆に移民の受け入れに伴うリスクの存在なんですが、まず一つ目に、国民
が最も危惧する治安の悪化が挙げられます。全く異なった文化や生活様式、そ
して何よりも大きな障害は、言語の問題だと思うんです。外国人が増加すると自
国民との間に必ずや何等かの摩擦が生じると思います。外国人労働者は自国民
に比べて、どちらかと言うと、単純労働、低賃金、長時間労働で雇われているケ
ースが少なくないと思うんですが、低賃金というのは生活の質や購買力に直結し
ますから、自国民との格差が開くという分断の社会が生まれます。この事は生活
に困窮した外国人の犯罪発生を誘発することになると思われれます。これ等の事
は、治安の悪化をもたらす、大きな要因の一つになるかと思えます。

2つ目に、雇用の問題なんですが、外国人労働力の提供が増えるという事は、
労働市場の奪い合いが発生する可能性も否定できません。外国人労働者の増
加が、単純労働分野で増加していった場合、労働市場の二極化が起きる事も考
えられます。この労働市場の二極化とは、高質・高度な仕事は自国民が担い、単
純労働市場は外国人が従事するという構図ですね。この形態が常態化した場
合、劣悪な労働条件が、恒常的になり、自国が単純労働を外国人に押し付けて
いるという、国際的な批判を浴びたり差別問題に発展する可能性も危惧されま
す。

外国人に対する教育の充実度が低い日本

この度の新型コロナウイルスの影響で国境を超える人の移動がストップして、世界各国で深刻な労働力の不足が発生しています。ですから、世界の主要国で経済の活性化に向けた人材の争奪戦が予想されるなか、労働力を如何に確保するかが共通の課題として浮上して来ています。国土舘大学の移民政策が専門の鈴木江理子教授は、「日本で長く働いて家族と暮らせる様になれば、海外から見ても、今よりは魅力的な制度になるだろう。外国人の定住化を視野に入れて、子供の教育など、受け入れ体制の整備を急ぐ必要がある。」と訴えています。

さて、先程も少し触れましたが、今般在留資格「特定技能」について、出入国在留管理庁が、長期の就労や家族帯同を認める方向の調整に入りました。将来の永住も含めた選択肢を増やす狙いだと思われるんですが、この事は他国との人材の争奪戦が予想されます。我が国が外国人労働者に「選ばれる国」になるためには、多言語の相談窓口の整備や、日本語の指導が必要な子供向けの教育体制の強化が急務ですね。

人手不足の深刻化と共に、政府は外国人労働者の受け入れを拡大して来た訳なんですけど、日本国内で暮らす外国人はこの6月末時点で、約282万人なんですね。新型コロナウイルス禍の中で職場を解雇された技能実習生が困窮して民間の支援団体に駆け込むケースが多発しています。技能実習生については、受け入れ窓口による実習状況の確認や、第三者機関の「外国人技能実習機構」（東京都）が実地検査する仕組みが有るんですね。この機構は実習生の相談に多言語で応じる窓口を設けています。所で労働者だけでなく家族の生活にも目配りが必要なんですけど、入国管理庁が対象業種の拡大へ向けて調整している特定技能「2号」は先程も触れましたが配偶者と子供に限って帯同を認めています。

子供が良い教育を受けられるかは、外国人が来日を判断する上で重要な要素となっています。現実には残念ながら外国出身の児童、生徒向けの教育体制は脆弱と言わざるを得ない状況下に有るんですね。文部科学省の2018年度の調査で日本語指導が必要な児童生徒約51,000人の内、半数以上が「指導者がいない」といった理由で日本語の授業を受けていないんですね。ですから当然に高校への進学も諦めざるを得ないという事になります。我が国の外国人に対する教育の充実度は非常に低いんですね。50か国以上の研究者が各国の多文化共生の取り組みを比較した「移民統合政策指数(MIPEX)」(2020年版)で、我が国の教育政策は各国の平均を下回っているんです。

世界はどう動いている?① / オーストラリア編

そこで、世界の先進国の移民の受け入れ状況について、考えたいと思います。移民大国としては先程冒頭でもお話しましたがアメリカ、カナダ、オーストラリア等が挙げられます。我が国と友好関係にある日本と季節が真逆のオーストラリアについて見てみたいと思います。よく知られている様に、オーストラリアはこれまで多くの移民を受け入れてきた移民大国なのですが、1970年代に人口問題を移民政策を取り入れる事によって解決しようと舵を切っているんですね。人口増加率はというと、2010年代で1.5パーセント程度とOECD諸国の中でも最も高い比率なんです。ですからオーストラリアは移民によって、国家が成り立っています。

このオーストラリアは試行錯誤を繰り返しながら、純血の白豪主義と決別して、1900年代後半からは、熟練労働者などの技能を持つ外国人を、定住を基本として移民を積極的に受け入れて来たんですね。イノベーションを起こし活性化を図るためにも、多様性を重んじることが重要であると考え、移民の持つ文化的な多様性を尊重しつつ、社会秩序の安定と国家発展を目指す「多文化主義」の政策を推進して来たんです。ですからオーストラリアの移民政策は、次の2つの観点から、近年同国の持続的な成長に大いに貢献していると評価されています。

まず第1番目に不足気味であった労働需要の充足が各職種で実現していること。第2番目に労働参加率上昇 (participation)、生産性の上昇 (productivity)、人口の増加 (population) という三つのPによって持続的な経済成長が可能となっていること、です。

90年代以降連続して世界最長の32年間経済成長を続けている背景として、積極的な移民受け入れの効果が指摘されています。それには、第3番目に挙げられる、若年層の移民増による人口の高齢化スピードが抑制されていることが関係していると思います。他方ですね、移民が都市部に集中してしまい、都市のインフラ整備が追い付かないという問題が発生してしまっていて、現在オーストラリアは高度人材の受け入れを一層推進する一方、全体としては、ここに来て移民の受け入れについて少し抑制する方向に政策を転換しています。

又、オーストラリアは移民政策を人口増加に伴う成長戦略として位置付けておりまして、経済的便益を増幅させるために、データ分析に基づいて、自国にとって必要な外国人を選択的に受け入れるといった、注意深い受け入れ政策をとって来たんですね。多文化共生に寛容な移民国家といわれるオーストラリアでも、慎重に練られた移民受け入れ政策をとり、労働市場の状況変化に合わせて政策を調整しながら、移民政策に対応して来た事は、我が国がこれから外国人の移民受け入れの有り方を検討するに当たって、大変参考にすべき重要な学ぶべき点がたくさん有るかと思います。



世界はどう動いている? ②/ フランス編

ここでもう一つ海外の例を見てみたいと思いますが、移民大国であったヨーロッパの先進国に目をやると、現在はおおむね、移民受け入れは原則的に抑制、禁止する政策に転換されつつあります。但し、他国でも同じなのですが、やはり高度人材や労働力不足の分野への移民の受け入れは積極的です。これまで大量に流入した移民の子孫である移民2世、3世は、語学力の不足、低学歴を原因として厳しい雇用環境に置かれていて、これ等の失業率の高止まりと共に社会的不安が増大する事態となっているんですね。ですからヨーロッパの各国は、彼らに対する教育や就業促進、そして治安の維持・強化等の為に大きな社会的コストの負担と実行を強いられています。

ここでヨーロッパを更に絞り込んでフランスに焦点を当ててみたいと思います。フランスはヨーロッパの中でも移民受け入れ国として、長い歴史と経験を積んでいるんですが、多くのヨーロッパ先進諸国と同様に移民やその子孫の社会統合に苦しんでいるんですね。フランスは第一次大戦以降に人口が急激に減少していき、この為、積極的に移民の受け入れを実践して来ています。特に第二次大戦後に於いては、いわゆる「栄光の30年」(1945年~1975年の間はフランス経済史上最大の成長期)には労働力が必要となり、炭鉱や自動車工業の労働力として、スペイン、ポルトガルなどから大量の外国人労働者の受け入れを行っているんですね。

しかし、これが1974年第一次オイルショックを契機に他のヨーロッパ先進国同様に、移民受け入れの門戸を閉じたんです。実は現在に於いてもこの国境の閉鎖と就労目的の移民の受け入れの停止の政策は続いています。家族の合流については人権に配慮して、すでに入国している移民が家族を呼び寄せることは許していき、このために、家族の呼び寄せによる移民の移動が引き続き増加し続けていますね。



我が国の移民政策はどうあるべきか

さてここで、我が国の移民政策は今後どのような方向性を示せば良いのか。我が国の国境線が四方海で有る事はとても重要な要素だと思われます。世界の大陸を見渡すとヨーロッパ、アジア、アメリカ等広大な大陸が地球上に存在します。これ等の大陸には多くの国が存在して、その国境線は、ほぼ陸上に線引きされている事です。この国境線の有り方は我が国と最も大きな違いを示しています。一方、大陸の国境線は、比較的自由に人の往来が出来るので、自国から外国へ渡ったという気持ちは、日本国から海を渡った時の我々の気持ちとはかなりの違いが有ると思います。こんな事を考えると、日本国民は、これまで永くDNAの純血主義を貫きたいとの思いが極めて強かったと思います。

人口減少等による我が国の現状を見ると、かつての経済大国世界第2位から滑り落ち、今や第3位の地位すら危うい状況です。我が国がこの難局を乗り越えるためには、移民政策からの逃避は出来ないと思われ、むしろ我々はこの移民の問題にもっと積極的に踏み込み、現実に対応すべきだと思います。

移民の受け入れは、確かに治安の悪化や、コミュニケーション不足による社会の分断、低所得の待遇による生活の質の低下に伴う、格差社会の出現など様々なリスクが予想されます。しかし、移民に対する日本語習得システムの確立や、子供たちの就学支援システムなど補強政策の基礎部分にもっと光を当てて、足下の土台をしっかり構築することが大事ではと思います。

我が国はこれまで、移民の受け入れは行わないで、外国人労働者を受け入れるというスタンスを貫いています。それではなぜ移民を受け入れずに移民政策を行わないのか。それは我が国の行政の縦割り構造が主な要因ではないかと考えます。例えば、法務省では、外国人を管理の対象としているのですが、これは入国管理法などによって、外国人が日本国内で不法行為を働いた時に監督責任を問われるのが法務省である為なんですね。又厚生労働省では移民の増加により、国内の労働者が締め出されたり、社会保障費の増加を危惧しており、どちらの行政も移民対策による外国人の大量流入には消極的なんですね。

現実問題として我が国の出生率の低下と相まって人口減少が進み、既に労働力不足に陥っている現実があります。ですから、このような現状を座視していると、現在の国内総生産（GDP）は持論維持は出来なくなり、労働生産性は減少の一途を辿る事となり、我が国の衰退は更なる厳しさを増すかと思いますが…。



地球環境問題

Global Environmental Issues

人類は果たして生き残れるか、私たちは今何ができるのか

2022.10.26 放送

今回の“俺流”行動規範は、大きな社会問題としてクローズアップされ続けてきた地球環境問題に関し、私たちがいまできること、そのために何を知っていなければならないのか、上村社長から伺いました。

人類の生存を脅かす環境問題、特に注目すべきは地球温暖化でないか、と提言されています。パキスタンで起きた大雨や洪水が相次いでいることを引き合いに、私たちを取り巻く異常な状態は、決して他人事ではないことを声高に訴えます。

なぜ気候変動が起こるのか、科学的なアプローチと共に、再生可能エネルギーの活用に至るまで、幅広くお話いただきました。また、地球温暖化の話題から、気候変動、生物多様性の減少、海洋汚染、森林破壊へとキーワードを列挙、私たちが抱える課題について、議論と行動を促しています。

「大切な事は、私たち1人1人が環境問題の現状をよく理解して、どの様に行動を起こせば問題解決につながるのか、小さな事で良いですから、自分に今できることは何かを考え、持続化のリアクションを起こしてくれる事ではないか」と語る上村社長。自分はどんな行動がとれるのか、自分自身の内面との会話も行いながら、お聴きする時間となりました。

地球環境問題

人類の生存を脅かす環境問題、特に注目すべき「地球温暖化」

地球温暖化から考えてみる

今回は、私たちが住む、この地球というかけがえのない星について、今何が起きているのか考えてみたいと思います。それは私たち人類の生存をも脅かす、環境問題ではないかと思うんですね。重要なことは1.地球温暖化です。続けて、2.気候変動、3.生物の多様性、4.海洋汚染、5.森林破壊、6.食糧問題や砂漠化などが考えられます。

そこでこの環境問題はいつ頃から始まったのかという事なんですが、人類の活動が地球環境に大きく影響を与えるようになった遠因は、18～19世紀に始まった産業革命なんですね。産業革命は化石燃料である石油や、石炭が多く使われる様になり、急激な経済成長がありました。併せて、世界の人口の増加も加え、人間の経済活動が拡張していった結果、地球という環境が本来持っている自然の回復力を超えてしまい、環境への悪影響が始まったのです。その結果は、酸性雨や工場等から排出されるスモッグによる健康被害などが、地球規模で目に見える形で発生する様になり、人類は初めて深刻な地球環境の大きな変化に目を向ける様になったんですね。

まず、一つ目に、現在我々人類が直面している地球温暖化からみていきましょう。気候変動は生態系の基盤をもゆるがすといった、大きな危険性を含んでいます。例えば北極や南極の氷の溶解、そして沿岸や山岳地帯の氷河層の後退、永久凍土の泥炭化等は、海面上昇を招き沿岸や低地の、はては南太平洋の島国等に住む人々の暮らしに、図り知れない程の大きな影響を与え始めています。

パキスタンではこの夏(2022年)から大雨や洪水が相次ぎ、国土の3分の1が冠水しているんですが、世界各地を異常気象が襲い、危機感は強まっています。実際、今年の2022年9月にニューヨークで開催された国連総会では、グテーレス事務総長が記者会見で、「パキスタンで起きている事は、気候変動危機への世界の対応があまりにも不十分であり、その根底には裏切りと不公平がある。」と警鐘を鳴らしているんですね。先進国が温室効果ガスの大半を排出していることを挙げて、排出削減目標をより高めるように求めています。

確かに気候変動危機は、先進国が温室効果ガスを大量に排出して来た事が大きな原因です。とはいえ、人間活動の基盤縮小は、「人類の生産活動をほぼ停止しなさい」に等しい事ですから、ここに温暖化の問題解決の難しさがあります。なお、温室効果とは、地球が放出する熱を温室効果ガスが吸収して、再び地表に戻す循環効果のことを言います。この自然の循環機能によって、これまで地球の平均的気温はほぼ15℃前後が保持されて、人類や他の生物が生存するのに最適な環境が保たれて来た訳です。

降水の問題

2015年のパリ協定では2020年までに年間当たり1,000億ドルを途上国に資金支援するとしていながら、これが達成出来ていない。ですから総会では、この気候変動対策の資金支援も議題になりましたね。又、人間の生存にとって、特に水の問題は、深刻だと思います。多くの研究から、平均降水量と降水の経年変化との間には、強い正の相関関係があると言われていまして、温暖化による平均降水量の増加は、降水を増加させる可能性が高いという事です。

「冬に雨が降る。昔は考えられなかった事が今では毎年だ」と、スウェーデン北部、トナカイ放牧を業いとする先住民族サーミの地域代表を努める、パーアンダース・ヌッティさん(66)は新聞記者の取材(2022年8月)にこの様に嘆いているんですね。先住民サーミが暮らす北極圏は、世界平均の3~4倍の速さで温暖化が進んでいます。冬の雨は厚い氷となって大地を覆い、トナカイはその下のコケにありつけなくなったんですね。ですから人工の餌を与えざるを得ないほどの影響を受ける様になっています。

この北極の温暖化が日本の海面上昇につながっています。空も海も全ての生態系が世界的に影響を受ける訳ですから、今や世界の人類が一丸となって脱炭素に立ち向かう必要があります。

所で、日本では20世紀中に平均気温が約1.0℃上昇しているんですね。又、近年に於いては、高山植物の生息地域の減少や、昆虫や動物の生息地域も同じ様に変化していまして、例えば皆さんご存知の桜の開花日の早まりや、紅葉の紅葉化の変化など身近に気候変動の変化を感じ取っていると思うんですね。これ等の現像は明らかに地球温暖の要因が大きく影響している事は否定し難い事実ですね。その中でも海洋国である我が国を取り巻く海水位の上昇は、特に影響が大きいのではと思われまます。例えば仮に50cmの海水位の上昇が発生した場合、日本では14万ha(ヘクタール)の国土が水没すると予想されていまして、日本の人口の約2.3%にあたる約290万人が危険にさらされる可能性が有ります。我が国の低地の海岸は、人口密度や富の集積度の高い地域ですから、水没による人的、経済的損失は計り知れないダメージを受けると思われまます。

発展途上国とのバランス

地球環境に大きな影響を与えている一つである、温室効果ガスの排出の割合なんですが、最も多いのが二酸化炭素(CO2)でして、実に全体の76%を占めているんですね。この二酸化炭素の排出の源はと言うと、化石燃料である石炭や石油等の燃焼によるもの、森林の伐採や破壊、経年劣化によるもの、そして山火事の発生等にも起因しているんですね。次にメタンガスなんですがこれが、16%を占めていまして、稲作や家畜の腸内発酵、廃棄物の埋め立てなどによるものです。更には、皆さんよく耳にされるフロンガス類ですね。これは約20%でして、化石燃料、森林破壊、森林劣化、山火事などによるものですね。

ここで改めて最も排出量の多い二酸化炭素(CO2)について、どの様な状況にあるのかを見てみますと、世界のCO2の排出量は約335億トン(2019年)でして、国別の排出量はというと、1番は29.5%を占める中国、2番目が14.1%でアメリカ、3番目が6.9%インド、そして、4番目が4.9%でロシア、そして3.2%の日本が5位、という順位となっています。

興味深いことに、2004年のデータを見てみますと、このデータには上位から29位までの間に中国とインドが入っていませんでした。つまり、2004年から2019年までの15年間の間に中国はCO2の排出量が世界第1位、そしてインドが第3位と上位に顔を出したということは、この期間に中国と、インドがいかに経済成長を大きく遂げたかという事実とCO2の排出量が相関しているか、ということがわかります。

中国やインドに見られる様に、開発途上国では、経済発展の進行でCO2排出量が急速に増加することが予想されます。となると、経済発展と温室効果ガスの排出抑制の両立した社会システムが、先進国との連携のもとに形成される必要がある、ということです。依然として、一人当たりの排出量は先進国が途上国を大きく上回っているからです。

この事については先程、今年の国連総会でグテーレス事務総長が、奇しくも、パキスタンの水害に触れて気候変動危機への世界の対応が余りにも不十分であり、その根底には裏切り(パリ協定で2020年までに年間当たり1000億ドルを開発途上国に資金支援決議している事。)と不公平があると記者会見で述べているのは、正にこの事なんですね。

再生可能エネルギー「太陽光」を活用すべき

さてここで「再生可能エネルギーの利用」について考えて見たいと思います。地球温暖化の主な原因である二酸化炭素 (CO2) の排出量を将来にわたって削減継続していくためには、まず①「エネルギーの消費効率」②「エネルギー消費量当たりのCO2排出原単価」③「活動量」の3つの観点から、これ等を効果的・効率的に組み合わせて対策を進める必要性が有るのではと思います。

エネルギーの消費効率を向上させたり、炭素集約度を低減して行くためには、当然に高度な技術的開発力が必要です。又、活動量の点からは、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済や我々個人のライフスタイルを見直して、1人1人の国民が無駄を削減していく行動と、併せて地球環境保全の意識を更に高め、より地球環境に配慮した日常生活や、事業活動を実践していく事が求められると思います。

そこで私たちの社会は如何にしてクリーンなエネルギーを獲得したら良いかと言う事なんですが、無尽蔵で強大なエネルギーの代表格はやはり、太陽光ではないかと思います。そこで太陽光の活用について少し考えてみたいと思います。太陽は膨大な光を供給してくれる再生可能なエネルギーであるという事です。しかし太陽光が地球の表面に降り注ぐ光エネルギーは、1立方メートル当たり1KW程度しかないんですね。ですから、いかに効率良く太陽の光を集積するかによくの創意工夫が求められます。太陽光発電は端的にいうならば太陽電池によって光エネルギーを電気エネルギーに変換するシステムと言えます。そして太陽光発電を利用している家庭の多くは、電力会社の電線と結合していますから、発電して余った電力は、電力会社が買い取るシステムになっていますね。

しかし乍らこのような部分的メリットの享受は有るものの、未だ一般家庭向けの太陽光発電システムは高価なものです。そこで日本に於ける太陽光発電の普及の理由なんですが、実は我が国の太陽光発電の普及率は世界一なんですね。その理由は、太陽光発電の研究開発の早い段階から、一般家庭への展開と系統連系技術の確立を基本方針としていたことが挙げられます。我が国の国土面積は狭いですから、面積型のエネルギー源である太陽光発電システムを普及させるためには、この考え方が不可欠だったんですね。そして余剰電力の買取り制度など、太陽光発電を取り巻く環境の整備と、政府による普及策の導入がこの基本方針を後押しして、今日の太陽光発電の普及を実現したんですね。

また、風力発電もみてみましょう。風力発電の仕組みは高いタワーの先端に取り付けた風車を風力で回転させ、この回転力で発電機を稼働させて電気エネルギーに変換するシステムですね。エネルギーを生み出す力が風ですから、太陽光発電と同じくCO2を排出しないクリーンエネルギーなんですね。しかし、この風車をどこにでも設置すれば発電が可能かというところではないんですね。

風力の力を利用した風力発電は設置する場所によって獲得できるエネルギーの量が大きく変動します。ですから日本での風力発電の適地はと言うと、山など制約の場所が非常に多く、このような場所は設置費用が高価になる難点があります。この為、海岸線が注目されているんですが、海風によるタワーの支柱や風車に塩害の影響が発生しますね。併せてタワーの高さは20m~25mにもなりますから定期的なメンテナンスには、高所作業のできる専門の職人を必要とする等、メンテナンス費用の増加があります。

問題が山積

次に番組の初めに提起しました、2番目の気候変動についてなんですが、「気候変動」とは気温や気象パターンの長期的な変化を指します。気候変動の要因は様々なんですが、これも人間活動による温室効果ガスの排出が原因ですね。人間の経済活動等による温室効果ガスは、本来この地球で自然に吸収される分と、宇宙へ放出される部分との二つが有りますが、排出量が多いとこのバランスが崩れて大気圏内に排出ガスが残留します。その結果、地球全体の温度が上昇して地球温暖化を招き気候変動を引き起します。これまで確認されている影響は、過去最大規模の豪雨や大型台風、干ばつ、大規模な森林火災などです。日本でも季節毎の最高気温の観測など大きな変化が見られますが、その上昇スピードは、毎年速くなっているとされています。

3番目の「生物の多様性の減少」なんですが、我々人類はこの地球上に生息する多様な植物や動物とともに共存を基本として生きています。しかしながら、我々人類は時には、植物や動物を食料や医療の目的に利用する事もあります。人間の活動による可様な生物多様性への介入は、生物多様性の減少を招き、自然界のバランスを崩し、生態系の豊かさを損なうにとどまらず、結果として私たち人間の暮らしにも直結する問題が発生します。近年に於いては乱獲や無秩序な自然開発などの様々な影響から、野生動物の種の減少や絶滅が起きています。レッドリスト (Red List) に掲載される絶滅危惧種の数が増えているという事です。ですから絶滅危惧種の特定動物の取引に関する「ワシントン条約」や、主に水鳥の生息地である湿地を守る「ラムサール条約」などを整備して、可能な限り多くの種が持続可能となる対策がなされています。

4番目として提起しました「海洋汚染」についてですが、海洋汚染とは、人間が排出した様々な物資によって海洋環境が汚染されてしまうことを指します。特に、近年に於いてはプラスチックによる海洋汚染が問題視されておりまして、このプラスチックは自然界での分解が非常に長期に亘り自然界に残留します。微細なマイクロプラスチックによる海洋汚染は全世界に拡散しており、本来は有るべきではないはずの北極や南極でも観測されています。

特にこのマイクロプラスチックは、人体への影響が懸念されており、マイクロプラスチックを摂取した海産物を介して人体に侵入する危険性が有ると言うより、既に一部では、人体への影響が出ている事も予見されます。更には水銀やカドミニウムといった重金属類も廃棄される事によって、海洋汚染を起こしています。ですから1972年12月には「廃棄物その他のものの投機による海洋汚染の防止に関する条約 (いわゆる「ロンドン条約」) が採択されています。

5番目の「森林破壊」についてですが、世界の森林の約半分を占める熱帯林では森林破壊が進んでおり、1990年から2020年までの30年間に、森林破壊された約9割が熱帯地域なんです。また近年、特にアメリカやオーストラリアから報告されている森林火災もその原因の一つです。例えばオーストラリアではコアラの絶滅が危惧されています。この様な森林破壊は、生態系の減少と同時に地球温暖化を加速させる大きな要因にもなっています。又、アフリカ等の地域では深刻な干ばつなどによる砂漠化の問題も顕在化しているんですね。6番目の「食糧問題と干ばつ」なんですが、干ばつや集中豪雨、異常な寒さ、暑さが有ると作物は十分に成長しません。特に干ばつは、農業に於いては非常に深刻な自然災害とされ、世界の農畜産物のうち8割は干ばつによるものとされています。

私たちにできること

さて、今回のテーマは地球環境問題を取り上げた訳ですが、環境問題について「世界で今こんなことが起きているんだ」という事を、私たち人類は、まず知る必要が有るという事です。そして次に「私たちに今出来る事は、何であるか」を知る事です。

環境問題は、地球規模で深刻な影響を与える大きなテーマであります。地球や世界そして国家規模で取り組むテーマだと言って、私たち個人は「何も取り組む必要はない」と、一歩下がった主張は、地球環境の破壊を座視して、人類の滅亡を認める事だと言っても決して過言ではないと思います。

大切な事は、私たち1人1人が環境問題の現状をよく理解して、どの様に行動を起こせば問題解決につながるのか、小さな事で良いですから、自分に今できることは何かを考え、持続化のリアクションを起こしてくれる事ではないでしょうか。個人や企業を問わず、地球上で恩恵を受けている全ての人類がアクションを積み重ねて行けば、地球上の限り有る資源を守り、地球環境の改善に必ずや少しの貢献が出来ると信じたいですね。



施設一覧 List of Facilities

2022年10月現在

株式会社三英堂商事では現在、13ヶ所の有料老人ホーム「家族の家ひまわり」、3ヶ所のグループホーム「気手来手くんの家」、時代のニーズに答えて20ヶ所のサービス付き高齢者向け住宅「家族の家ひまわり」、有料老人ホームと同様のサービスを提供する9ヶ所のサービス付き高齢者向け住宅「家族の家ひまわり」(特定施設)を建てて、見守り付きの安心の住まいで暮らしたいという皆様の声にお応えしています。

私たちの基本理念

- 感謝と尊敬
- 真心のお手伝い
- 家族の絆の架け橋
- 社会参加と共生
- 未来の価値の創造
- 無上意のサービス
- 進化への対応

介護のご相談コーナー

介護に関する各種相談に応じています。詳細はお気軽にお尋ね下さいませ。



お客様相談センター

TEL: 03-5466-1571 (代表)
FAX: 03-5466-2837

0120-81-3810

受付時間 9:00 ~ 18:00 土日祝を含む毎日

okyakusamasoudancer@saneido.co.jp
https://www.saneido.co.jp/



ご利用される時のADLの例

経管栄養(胃ろう)、持続導尿(バルーン留置)、ペースメーカー使用、在宅酸素使用 など...

<p>自宅での介護に限界を感じている</p> <p>ご家族に変わって親身に介護させていただきます</p>	<p>自宅医療に限界を感じている</p> <p>看護師が日中常駐し、医療サポートいたします (受入可能な医療対応はご相談ください)</p>	<p>生き甲斐を取り戻したい</p> <p>独り暮らしは孤独で不安。共同生活で社会参加したい方</p>	<p>病院から退院を促され行き場がない</p> <p>退院までの期間が短い方もご相談ください</p>	<p>自宅での看取りに自信がない</p> <p>看取りについてもお気軽にご相談下さい</p>
---	--	--	---	---



プロフィール

上村 岩男 (かみむら・いわお)

株式会社三英堂商事 代表取締役社長。

1948年、鹿児島県生まれ。1977年、29歳のとき、不動産管理業務を中心とする三英堂商事を創業(1978年には株式会社三英堂商事に改組し、代表取締役に就任)。1998年から介護事業に参入、現在は首都圏を中心に介護付有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅、地域密着型のグループホームを運営する。

HIMAWARI MAGAZINE

書籍の紹介

人生の最後を「感動」で締めくくる! 介護施設選び5つのポイント



介護施設の利用がごく当たり前となっている状況のなかで、高齢者やその家族にとって非常に大きなテーマとなっているのが施設選びを検討する時「どのような介護施設を選べばよいのか」です。

「感動の喜びを得られる介護施設であれば、利用者は生き甲斐と希望を獲得できる」ということを強調、感動を味わえる施設を見つけるためにはいくつかの着眼すべきポイントについて実例を挙げて詳しく解説しています。

最期に豊かな人生を送りたいと願っている高齢者の方々やその家族にとって、ささやかな手助けとなることを願った一冊です。

Business Administration
上村岩男の"歴史が刻む"実践経営学

2022 Autumn

Saneido Corporation
KAMIMURA IWAO

株式会社三英堂商事の
ホームページはこちらから

三英堂商事



<https://www.saneido.co.jp>

